

## 再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：高松 諭

事業名	一般国道9号 三隅・益田道路	事業	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：島根県浜田市三隅町 至：島根県益田市遠田町			延長	15.2km
<b>事業概要</b> 一般国道9号は、京都市から下関市までを結ぶ延長約770kmの主要幹線道路である。 三隅・益田道路は、島根県浜田市三隅町と益田市遠田町を結ぶ延長15.2kmの自動車専用道路である。 事業目的は、緊急輸送道路の確保、第三次救急医療機関へのアクセス向上、広域観光ルートの形成を図るものである。					
H24年度事業化		H22年度都市計画決定		H26年度用地着手	
H27年度工事着手					
全体事業費	約935億円	事業進捗率 (R5年3月末時点)	約76%	供用済延長	0.0km
計画交通量	17,300 ～ 18,800台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 1.3 (1.5) (残事業) 1.5 (6.8)	総費用 (残事業)/(事業全体) 232/1,030億円 事業費：167/964億円 維持管理費：66/66億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,588/1,588億円 走行時間短縮便益：1,299/1,299億円 走行経費減少便益：241/241億円 交通事故減少便益：48/48億円	基準年 令和5年	
<b>感度分析の結果</b> (事業全体) 交通量：B/C=1.3～1.8 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=5.8～8.0 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.5～1.6 (事業費±10%) 事業費：B/C=6.4～7.4 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.5～1.6 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=6.6～7.1 (事業期間±20%)					
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失の削減が期待される ・一般国道9号の混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される ・バス路線（大阪線、浜田益田線、土田線）の利便性向上が期待される ・浜田市から益田駅（特急停車駅）へのアクセス向上が期待される ・浜田市から萩・石見空港（第三種空港）へのアクセス向上が期待される ②物流効率化の支援 ・益田市から浜田港（重要港湾）までのアクセス向上が期待される ③国土・地域ネットワークの構築 ・高規格幹線道路「山陰自動車道」に並行する自動車専用道路の一部として位置づけられている ・隣接した日常活動圏中心都市間（益田市～浜田市間）を最短時間で連絡する路線を構成する ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が期待される ④個性ある地域の形成 ・萩・石見空港から石見海浜公園（R4 観光入込み客数 53万人/年）等へのアクセス向上が期待される ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次救急医療機関（浜田医療センター）へのアクセス向上が期待される ⑥災害への備え ・第1次緊急輸送路道路である国道9号の代替路を形成する ・並行する現道の要防災対策箇所が回避される（3箇所） ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が期待される ⑧生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が期待される ・SPM排出量の削減が期待される ⑨他のプロジェクトとの関係 ・大規模事業（一般国道9号浜田・三隅道路、一般国道9号益田道路）と一体的に整備する必要がある ・「島根創生計画（R2.3）」、「第2次浜田市総合振興計画後期基本計画（R4.3）」、「第6次益田市総合振興計画（R3.3）」に位置づけられている					

関係する地方公共団体等の意見

対応方針（原案）については妥当である。

一般国道9号三隅・益田道路は、地域産業の活性化や地域間交流の促進に大きく寄与するとともに、国道9号の事故・災害時の代替道路機能の確保、救急医療活動の支援に必要な不可欠な路線であり、既に公表されている令和7年度の確実な全線開通を図って頂きたい。

また、その他の事業中区間につきましても事業促進を円滑に行い、早期に山陰道の全線開通を図って頂きたい。

事業評価監視委員会の意見

- ・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。
- ・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- H26 年度に中国横断自動車道尾道松江線及び仁摩・温泉津道路が全線開通
- H28 年度に福光・浅利道路が事業化
- H28 年度に浜田・三隅道路が全線開通
- H29 年度に朝山・大田道路が全線開通
- H30 年度に多伎・朝山道路が全線開通
- H30 年度に一般県道浅利渡津線が全線開通
- R2 年度に益田西道路が新規事業化
- R3 年度に益田・田万川道路が新規事業化
- R3 年度に大井・萩道路が新規事業化
- R5 年度に三隅・長門道路が新規事業化
- R5 年度に益田道路（久城～高津）が新規事業化

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和5年3月末時点で、事業全体の進捗率は約76%、用地の進捗率は100%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在、令和7年度の開通を目指して工事を推進している

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ事業を推進していく

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。